



No.50（令和6年3月15日発行）

卷頭言



Dr. Tetsuya Kato is a male with short, dark hair, wearing a dark suit jacket over a light-colored shirt and a patterned tie. He is looking directly at the camera with a neutral expression.

能登半島地震の被災者が、テレビでメッセージを残していました。「当たり前のことが、当たり前ではなかった」「私たちは生かされている」この言葉の重みを心に留め、子どもたちやご利用者、そしてご家族の支援に向き合っていきたいと思います。

令和5年度 施設長等研修会

事務局長 増田吉則

静岡県知的障害者福祉協会では、会員施設の施設長等が施設の管理・運営に関する情報や地域福祉の動向等を収集するとともに、施設種別ごとの諸課題や今後のあるべき施設運営のあり方を議論することにより、施設長等の資質の向上を図り、もって施設利用者の処遇の向上に資するため、毎年度、施設長等研修会を開催しています。

令和5年度は、4年振りに完全対面方式での2日間研修として開催しました。新型コロナウイルス感染症やインフルエンザなどの流行もあり、急遽欠席となってしまった方もおられて、最終的には、110人が参加しました。

また、今年度の研修会では、令和6年度、7年度の部会長、副部会長、地区代表理事が選出され、来年度の体制が固まりました。天良昭彦副会長（次期会長）から、新役員の皆様の紹介が行われました。

1日目のパネルディスカッションでは、「福祉施設におけるエンゲージメント」と題して、3人のパネリストの方から発表をしていただきました。

宇佐川さんからは、「離職してしまった若手は戻って来ないし、若手の採用は非常に難しい。離職を防ぐ取組も大切である。給与では他業界にはかなわないというが、就職先を決める際、必ずしも給与だけが決め手ではなく、労働時間や休暇、福利厚生、職場の雰囲気なども重要視される。」との助言をいただきました。仲安副会長（あさぎり施設長）からは、宇佐川さんの発言を受け、「誰ひとり取り残さないという目的意識を持って、就労環境の改善に努めてきた。職員数を大幅に増やし、常に職員の方々の思いや考え方を把握しようとしてきた。そして、職員一人ひとりが、心理的安定性を得られるよう、他施設との交流や静岡県知的障害者福祉協会の様々な研修やイベントへの参加などに努めている。」との報告がありました。静岡福祉大学の木下先生からは、「福祉体験などでの高齢者との触れ合いがきっかけで福祉を目指すようになったという学生は多い。一方で、学生にとって、知的障害者施設というのはあまり馴染みがない。知的障害者施設でも、積極的に実習を受け入れることで就職先として意識してもらえるのではないかな。学生が集まらないのは、知的障害者施設の周知不足も一因ではないかな。」との指摘をいただきました。このあたり、来年度に向けての課題が明らかになったように感じました。

2日目は、施設種別ごとの分科会を開催しました。障害者支援施設部会では、静岡県社会福祉人材センターから講師を招き、静岡県における福祉人材確保の実態などを学んだ上で、グループワークを行っていました。生産活動・就労支援部会では、報酬改定の概況、能登半島地震の現地に入ったチームからの報告の紹介、会員施設・事業所の近況報告などを行っていました。その他の部会でも、近況報告や意見交換など、実り多い分科会となったようでした。

<R5 施設長等研修会 日程>

会 場 御殿場高原ホテル（御殿場市神山 719）ほか

【第1日目】令和6年1月25日（木曜日）

- 1 開会のことば 静岡県知的障害者福祉協会 副会長 仲安寛元
- 2 挨拶 静岡県知的障害者福祉協会 会長 池谷 修
- 3 施設種別施設長会議 （部会長、副部会長の選出）
- 4 地区別施設長会議 （地区代表理事の選出）
- 5 パネルディスカッション

テーマ：「福祉施設におけるエンゲージメント」

パネリスト：株式会社リクルート ジョブズリサーチセンター長 宇佐川邦子 氏

静岡県知的障害者福祉協会 副会長、

障害児入所施設「あさざり」施設長 仲安寛元 氏

静岡福祉大学 社会福祉学部 健康福祉学科 教授 木下寿恵 氏

コーディネーター：静岡県知的障害者福祉協会 副会長 家込久志

6 次期役員紹介、挨拶

7 閉会のことば 静岡県知的障害者福祉協会 副会長 家込久志

【第2日目】令和6年1月26日（金曜日）

第1分科会 児童発達支援部会（Brush Up1階 第4会議室）
 第2分科会 障害者支援施設部会（Brush Up1階 第2会議室A）
 第3分科会 日中活動支援部会（Brush Up1階 第2会議室B）
 第4分科会 生産活動・就労支援部会（Brush Up2階 第3会議室）
 第5分科会 地域支援部会（Brush Up1階 第1会議室A）
 第6分科会 相談支援部会（Brush Up1階 第1会議室B）
 <ホテル Brush Up = 御殿場高原ホテル隣接>

<1日目の画像>

会長挨拶

（静岡県知的障害者福祉協会 会長 池谷 修）



パネリストの宇佐川さん（左）と仲安副会長



パネルディスカッションの様子



パネリストの木下教授





天良昭彦次期会長（右端）と新役員の皆様

1 日目の最後に閉会のことばを述べる家込副会長



< 2 日目の画像 >



第 1 分科会 児童発達支援部会



第2分科会 障害者支援施設部会



第3分科会 日中活動支援部会



第4分科会 生産活動・就労支援部会



第5 分科会 地域支援部会



第6 分科会 相談支援部会

地域移行促進事業

令和5年度世話人等業務セミナー&合同説明会

地域支援部会部会長 矢代 啓

昨年に引き続き今年度も静岡県からの委託を受け、地域支援部会にて世話人等業務セミナー&合同説明会を行いました。趣旨・目的としては福祉業界全体を見ても人材不足が否めないのが実情です。特に障害のある方々が安心して地域で生活していく場となるグループホーム、そして、その方々の地域生活を支える「世話人」、「生活支援員」の担い手が足りていません。そのような現状を踏まえ知的障害のある方々を支える人材の確保を目指すことが目的となっています。

今年度は県内（東部・中部）の2会場で実施し、1回目は令和6年2月12日、県東部の沼津市にある輝望会 C&C センターきぼうにて行いました。参加者は17名、5事業所のブース出展となりました。また、県の障害者政策課の増井課長にも出席していただきました。セミナーでは知的障害者の特性及びグループホームの概要説明を行い、その後、各ブースに分かれての説明会を行いました。またグループホームの見学会もあわせて行いました。

2回目は2月24日、県中部の焼津市にある総合福祉会館ウエルシップやいづにて行いました。参加者は9名、8事業所の出展となりました。前回同様、障害者・グループホームについての理解を深めてもらえるようセミナーを行いました。今回は、実際にグループホームで生活している利用者さんを招き、インタビューを行いました。出席者にとっても利用者さんを知る良い機会の場になったと思います。その後、各ブースに分かれ、説明会を行いました。

2回の開催を通し、出席人数は合計26名でした。参加された方々の中から、1人でも多くの方が福祉業界へ足を踏み入れ、仲間として共に利用者支援に携われたらと思います。この試みはすぐに人材不足につながる効果があるわけではなく、継続した取り組みの中、この仕事の「魅力」を発信し続ける中で効果が出てくるのだと思っています。令和6年度は県内、東部・中部・西部の3会場での開催を予定しており、障害者理解、人材不足への取り組みを続けていきたいと思っています。

<東部地区（沼津会場）の様子>



会場となった輝望会 C&C センターきぼうの掲示板には、世話人等業務セミナー&合同説明会のちらしが目立つように貼られていました。



司会を務める地域支援部会長の矢代さん



主催者挨拶（静岡県 健康福祉部 障害者政策課長 増井重広 様）



参加者の皆さん

各ブースでの説明風景



＜中部地区（焼津会場）の様子＞



主催者挨拶（静岡県 健康福祉部 障害者政策課長 増井重広 様）



参加者の皆さん



グループホームについて説明する、すぴかの佐野さん

グループホームでの生活について、(福)焼津福祉会大井川寮の阿部さん(右)からの質問に答える利用者の野崎さん(中央)



各ブースでの説明風景



第 32 回愛護ギャラリー展を終えて

文化担当理事 飯塚友紀

令和 5 年度の愛護ギャラリー展関連の取り組みを改めてご紹介させていただきます。

愛護ギャラリー展は令和 3 年度に第 30 回の記念回を迎えました。記念事業として、令和 4 年度に愛護ギャラリー展記念サイトの作成、今年度は受賞作を LINE スタンプにして販売し、より多くの方に身近に感じてもらえるよう取り組みました。

また、昨年の受賞作を、10 月 5 日、6 日にグランドホテル浜松で行われた第 60 回東海地区知的障害関係施設職員研究協議会にて、静岡県文化芸術コーディネーター事業の皆様のご尽力を頂き、ミニ愛護ギャラリー展を行い、参加された方々に作品を見て頂く機会を頂きました。色々な取り組みを通して、多くの方の目に触れて頂けるよう、アイデアを出しながら進めています。

今年度の愛護ギャラリー展はグランシップにて、令和 5 年 12 月 12 日の作品搬入及び審査会・講評会から始まり、13 日展示飾りつけ、14 日開会式、18 日までの一般公開及び搬出という日程で開催しました。385 作品の出展がありました。ご来賓の方々にもご出席を賜り、励ましのお言葉を直接頂き、受賞者の方々も大変嬉しそうにされていました。改めまして、沢山のご支援ご協力を頂き、誠にありがとうございました。

今回は昨年の 3 つの大きな取り組み（①愛護ギャラリー展記念サイトの作成。②ワークショップの開催。③協力員の増員）に追加して①初めてのボランティア募集。②参加賞として、受賞作のカレンダー作成。を行いました。ボランティアには会場近隣の大学の生徒さんが来て下さり、大変ありがたかったです。受賞作カレンダーも大変好評で、喜ばれています。

今後も引き続き、実行委員・協力員へのご協力を頂けるように体制を整えたいと思っていますので、是非ご協力を頂きますよう心よりお願い申し上げます。

過日行われた反省会では、来年度のギャラリー展をより良くしたいという沢山の提案がありました。

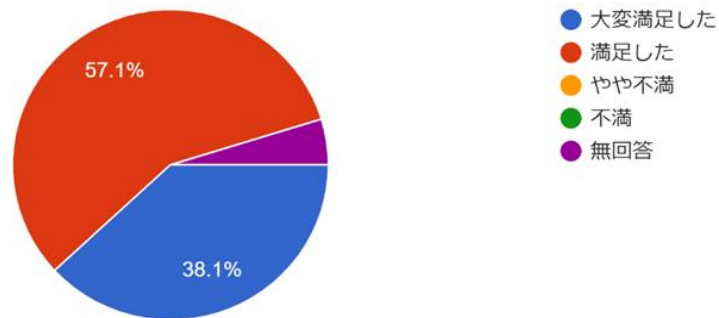
第 33 回のギャラリー展開催に向けて、実行委員の皆様と共に作品をより多くの皆様にご覧頂けるような取り組みを考えながら準備を進めて参ります。

ご利用者の方々の日々の活動の表れとなる、想い、熱意のこもった多くの作品が寄せられることをお願いし、32 回愛護ギャラリー展のご報告とさせていただきます。

第36回静岡オレンジマラソン大会 実行委員・協力員 アンケート

1, 参加していかがでしたか？

21 件の回答

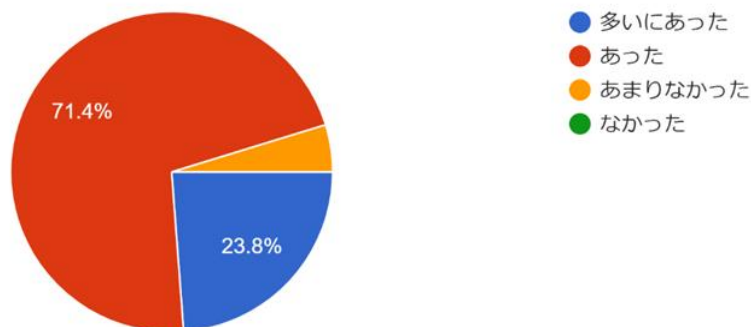


2, 上記「1」に回答し入ください。

- ・色んな方と交流ができた為。
- ・他職員と楽しく準備、運営ができた。
- ・楽しかった。(多数意見)
- ・実行委員として初めての参加だったが他施設との交流もできて無事終わったから良かった。
- ・思った以上に運営に関わる仕事がスムーズにいった。チーム間が一つにまとまって連携がうまくとれた。
- ・多くのスタッフ、ボランティアの方々との交流が深まった。
- ・今まで参加者として大会に関わっていたが、準備を通して他団体の方とも知り合えた。
- ・初めての参加だったので、何をしていたかわからず、あたふたしてしまった。
- ・久しぶりのスタッフだったが、全体でできたことに楽しかった。
- ・初めて参加して良い経験になった。
- ・参加者の一生懸命な姿を見られたので大変満足だった。
- ・他施設職員との交流ができ、大会を成功する事ができた。(複数意見)
- ・スタッフも参加者もみんな笑顔だった。

3, 通常の職場とは違った場でお仕事をしてみて、学んだことはありましたか？

21 件の回答

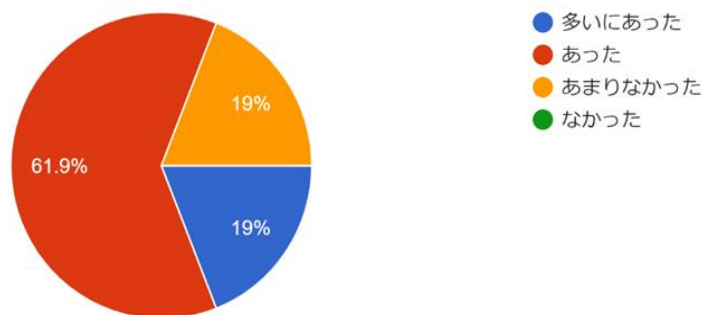


4, 上記「3」に回答した理由をご記入ください。

- ・様々な施設の取り組み等が聞けた為。
- ・さまざまな施設の方とコミュニケーションが取れました。
- ・普段やらないような仕事が多かったので。
- ・イベントの運営を実行委員として参加して裏方の仕事に触れることができて初めての知ることが多かった
- ・運営に携わることで業務の段取りや情報の共有など日々の業務に通ずることがたくさんあると思いました。
- ・東中西の施設同志で交流ができた。
- ・施設外での活動は、利用者、職員共に良い刺激になる。
- ・実行委員、協力員、ボランティアの方と話し参考になった。
- ・他事業所の方、利用者と一つの事をするという経験は得難いものであった。
- ・他事業所の方と話せる機会があつてとてもよかった。
- ・普段とは違う視点での経験がつめたため。
- ・他事業所の職員と触れ合うことができた。
- ・大会を一緒に成功することができた。
- ・身体を動かすことの大切さを学んだ。
- ・他施設職員との交流ができたから。
- ・上司と部下の関係とは違うが、スムーズに作業ができた。

5, 今回参加し、今後の利用者支援等のお仕事に生かせることはありましたか？

21 件の回答

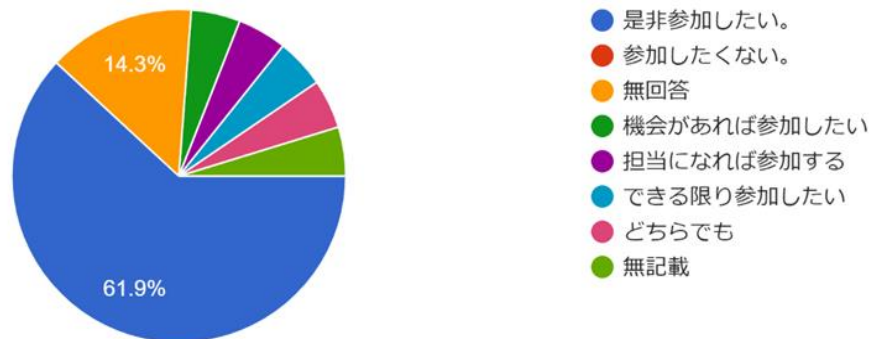


6, 上記「5」に回答した理由をご記入ください。

- ・施設での日中活動（余暇活動）のヒントになる。
- ・他事業所の方の利用者とのかかわり方。
- ・職場からはじめての参加だったので、経験を他の職員もできたら、よりよい支援につなげられると思う。
- ・声のかけかた、物腰のやわらかさ、気遣い
- ・コミュニケーションの大切さ。
- ・身体を楽しく動かす。
- ・他施設利用者との交流
- ・あまり利用者と接する機会がなかった。

6, 来年も参加したいと思いますか？

21 件の回答



7, 上記「6」に回答した理由をご記入ください。

- ・中部地区の方が主になっている印象。ベテランの方がしっかり運営してくれていたの、大きなトラブルもなく開催出来ている。
- ・自分が参加したいという気持ちと他職員に経験させたいという気持ちがある。
- ・楽しかったから。(複数意見)
- ・とても充実した気持ちになったので。
- ・普段関わらない他施設の方と話す機会があったり、大会を通して色々な利用者さんの様子を見ることができたから。
- ・スタッフさんの雰囲気もよく、とても楽しい。
- ・各参加者の笑顔が見られるから。

7、自由記載欄

- ・大勢のスタッフがいたため大きな問題なくイベントが終えて良かったと思う。
- ・前年度の情報があれば分かりやすかったかもしれない。
- ・班長をはじめ実行委員会の皆様大変お疲れ様でした。天気も良く、無事に終われてよかったと思います。
- ・自分の施設での年1回のパラスポーツ大会に今回学んだ運営方法を生かしたい。
- ・自分自身も施設にとっても大変意義がある。スタッフ間の協力が大変よかった。スムーズな運営につながっていた。
- ・受付で渡すものの備品準備はもう少し工夫することでスムーズにできる。帰りはビブスは回収ができたが、ビブスを使用しないチームは受付を通らず帰るので、必ず受付に行くように声掛けと仕組みが必要。
- ・人数が少なくなってきたようなので、午前中のみとか時間を短くした開催も検討してもいいかなと思った。
- ・班長さんが忙しいので、副班長さんとの連携がもっとあったらよい。
- ・運営本部の皆さまありがとうございました。
- ・班長の指示が的確で動きやすかった。
- ・今回初めて参加させていただきありがとうございました。運営等については分からない事ばかりでご迷惑をおかけしたと思いますが、機会があれば参加したいのでよろしくお願いします。
- ・温かいお茶があったりしてうれしかった。

第36回静岡オレンジマラソン大会 ボランティア アンケート

1, 今回のボランティアスタッフ募集をどちらで知りましたか？

11 件の回答



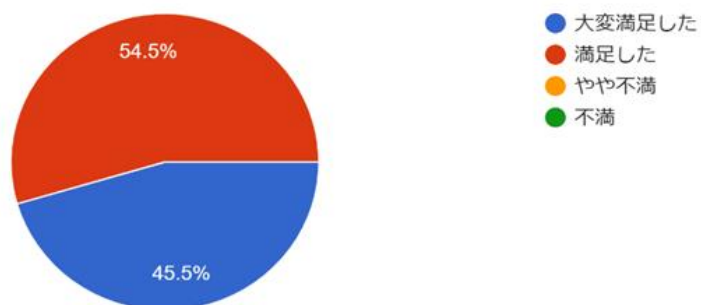
2, 静岡県知的障害者福祉協会からの事前のご案内についてお聞きます。

11 件の回答



3, 参加して、いかがでしたか？

11 件の回答



4, 上記「3」で回答した理由をご記入ください

- ・このような大会が開催されていることを初めて知った。
- ・初めての経験で楽しかった。(複数意見)
- ・競技に参加する人の思いが伝わってやってよかった。
- ・お弁当が美味しかった。
- ・やりがいを感じた。
- ・たくさんの人と交流、協力できた。
- ・沢山のことを学ぶことが出来たし、何よりとても楽しかった。
- ・選手の頑張る姿や応援する方たちの姿を見られることや、大会を通じて関わり合えることがうれしかった。

6, 上記「5」で回答した理由をご記入ください

- ・普段やらないようなことばかりで学ぶ方ができた。
 - ・コースの案内や応援をチームで頑張れた。
 - ・県内にいろいろな施設があるということがわかった。
 - ・参加者と共に頑張れる姿を見て応援できることはいい事だなと学べた。
 - ・この大会の存在を知る事ができて良かった。
 - ・世の中のあたたかさを学べた。
 - ・「障害」は、その人たち自身ではなく、周りが創り出してしまっているんだな、と感じた。その証拠に、今日はその存在を全く感じなかった。
- また、みんなでダンスを踊ったのもとても楽しく、運動や音楽は、「知性」や「考える力」ではなく、心があればみんなで楽しめるものなんだな、と再確認出来た。
- ・大会の運営に参加できてよかった。

7, 自由記載

- ・楽しかった。(多数意見)
- ・応援が楽しかった。
- ・参加者がもっといればイイなと思った。
- ・貴重な経験をありがとうございました。

静岡県知的障害者福祉協会
令和6年度、7年度 新役員名簿

役職名	選 出 部 会 ・ 地 域	氏 名	施 設 名	東海地区 会役員
会 長	—	天良 昭彦	駿豆学園	○
副会長	児童発達支援部会 部会長	仲安 寛元	あさぎり	○
副会長	障害者支援施設部会 部会長	匂阪 恭子	緑ヶ丘学園	○
副会長	日中活動支援部会 部会長	家込 久志	ほっと	○
副会長	生産活動・就労支援 部会 部会長	溝口 弘志	あおばのさと	○
理 事	児童発達支援部会 副部会長	大畑 敦子	伊豆の国市児童発達支援セ ンター	○
理 事	障害者支援施設部会 副部会長	渡邊 貴則	天竜厚生会アクシア藤枝	○
理 事	日中活動支援部会 副部会長	三室 龍一	あにまあと	○
理 事	生産活動・ 就労支援部会 副部会長	石井 智賀	ワークセンターやまもも	○
理 事	地域支援部会長	矢代 啓	オランチ	○
理 事	相談支援部会長	飯塚 友紀	サポートセンターコンパス 北斗	○
理 事	地区代表（東部）	高橋 頼太	インマヌエル	—
理 事	地区代表（中部）	久保田 竜	ワークすばる	—
理 事	地区代表（西部）	古橋 誠	オリーブの樹	—
—	地域支援部会 (副部会長格)	大塚 信乃	アフターケアセンターくさぶ え	○
—	相談支援部会 (副部会長格)	遠藤 智一	すずらん	○